

第2回栄村むらづくり懇話会

—教育文化部会—

(以下 Q : Question A : Answer O : Opinion)

第1節 こども教育

第2節 学校教育

1. 教育施設の整備

【施策の展開】

・(村側の意見) 村としては、周辺市町村でも進めているような、保育園から中学校までの一貫した指導体制を考えていきたいが、児童数の減ってきている中でハード面をどうしたらよいかというのがあり、まだ決めきれていないのが現状である。また、前回のご意見で、保育園の所管を教育委員会にした方がいいというのがあったが、村としても一貫した部署で担当させる方向で考えている。

O : 一貫した窓口での対応がすべてではないと思う。子どもの年齢によって関わり方や指導方法が変わるので、栄村の子どもをどういう大人にするのかをみんなで情報を共有することが大事だと思う。だから、保育園の時は好奇心を育てて行って、小学校で学ぶようにつなげていく、その連携、例えば家庭、地域、学校、保育園の連携がうまく取れていってブレなければいい。であれば、「子育て支援課」みたいなものをわざわざ作らなくてもいい。要は、「体制づくり」が重要だと思う。

2. 教育内容の充実

【施策の展開】

Q : 少人数というのは他の地域も同じなので、他地域との連携というのは考えていないのか。例えば、他地域の教育委員会と協力し合って文化的な事業や子供向けのクラシックコンサートを呼んだりすることは？子どもには、他の世界を知って欲しい。

A : 現状、教育委員会レベルでの連携はしていないと思う。

O : 子ども同士で考えたり学んだり教え合ったりする経験が子どもたちを凄く伸ばすというところがあると思う。そういうのを、他地域との交流というふうに施策に盛り込んで欲しい。今年、「自然学校」では堺区と交流したけど、「ジオ」という関係では宿泊で「ジオ研修」というキャンプみたいなもので津南町と一緒にやればいいんじゃないかという意見が育成会から出た。

O : 県を跨いでも隣だし、生活圈も同じなので、それはいいと思う。

A : 学校行事では難しい面があるが、学習の交流という点では考えてみたい。

O : たとえば、隣の野沢温泉村の子どもと学習上の交流が図られれば、面白いと思う。外国

人が多く来る村だし、栄村の子と全然カラーが違うと思う。木島平村の子どもとも違うはず。子どもたちがお互いの地域紹介をするというか、地域を知ることが大事だと思う。

A：行政レベルでは難しいと思うが、解決策の一つとして、そういう交流やイベントを実行してくれるところに委託してやれば良い。いずれにせよ、他地域との連携については計画に盛り込めるように考えてみたい。

O：栄村の子どもたちは、どうしても文化や芸術に触れる機会が少ない。長野まではなかなか連れて行けないし、学校行事としても、なんとか「本物」の芸術を見せてあげたい。

O：こういう話もやはり他地域と連携をすべきだと思う。村単独ではお金の点でも難しい。

O：横浜の栄区の子どもたちとの交流もあるが、同世代なら、横浜でなくても近隣の子どもたちとの交流を図るようなことでも良いと思う。都市と農村の子どもの交流では、どうも都市の子どもは観光で栄村を訪れている風であり、栄村の子どもたちが考えている交流とちょっと合っていないのが実情だ。ちょっと交流方法を見直したい。

第3節 家庭教育

1. 家庭教育

【施策の展開】

第4節 社会教育・生涯教育

1. 社会教育・生涯教育

【施策の展開】

第5節 文化財の保護

1. 環境学習・保護保全活動

【施策の展開】

第6節 歴史・民俗の記録、継承

1. 歴史・民俗の記録、継承

【施策の展開】

O：栄村の伝統工芸の切り絵と和紙、これをどう継承していくか。

O：このままでは栄村の伝統・文化はみんな消えていってしまう。一つぐらいは何とか残したい。

O：その伝統・文化を継承してもらう目的で地域おこし協力隊を募集するのもひとつの方法だと思う。